

# 社会福祉法人希清軒傳六会

## 第2次中期計画（令和3年度～5年度）修正

### 1. はじめに

当法人は平成11年3月に設立し、令和5年度で23年目に入る。その間、度重なる介護保険制度改正及び介護報酬改正を経て、約四半世紀業務を行ってきた。

令和2年5月に新たに瓢箪町きらく園を開設したものの、Covid19の世界的蔓延と重なり、経営的に非常に厳しい状態に陥り借入金も膨らんでしまった。

また、世界的なエネルギーコスト上昇及び食材をはじめとする物価高も顕著になり、当法人の収益にも更に大きく悪影響を及ぼしている。

一方、介護報酬については、改正は令和6年度であり、令和5年度は現状の報酬で経営を余儀なくされる。介護事業は容易に価格転嫁もできず、そのため物価上昇及び最低賃金上昇に伴う賃金上昇への対応は容易ではなく、令和5年度の収益の見通しは厳しいものと推測できる。

以前より介護報酬収益にのみ依存する体制は見直しが必要であり、新たな収益を確保する新規事業を立ち上げるべき模索を続けてきた。しかし本来業務の介護事業が悪化しており、まずはこの3年間でその立て直しが必要であり、資金事業計画は大きく修正が必要である。

職員確保については、加速化する少子高齢化の影響で、更に困難さを増している。福祉大学や専門学校に入校する日本人は激減しており、今後は留学生や高校生、一般社会人の中途採用者を中心になるであろう。そうした中、IT導入などで業務効率化を図っていくことが急務である。

介護業界のみならず、日本経済・世界経済においてもCovid19蔓延以来、激動の時期に突入している。すべての介護事業者、すべての業界が逆境に喘いでおり、当法人としても現中期計画を見直し、令和6年度の介護報酬改定を精査し、次期中期計画に引継ぎ、生き残り更には発展へと繋げていく。

### 2. 外部環境

人材確保については、労働人口が減少する中、困難さを極めている。金沢職業安定所における有効求人倍率は金沢管内（R5.1）で全産業1.69倍、介護職は5.6倍である。また県内の介護職員養成校の動向は、そのほとんどが定員を大きく割っている。

LIFEはR5年度で3年目を迎える。システムの更新に向けたパブリックコメント募集が始まっており、データ提出後のフィードバックも以前よりは内容が増えてきた。次回の介護保険改正では、どの事業所がLIFE対象となるか、それらの活用がどう稼働に関わってくるのか確認したい。

### 3. 内部環境

人材活用について、これまでの採用については、慢性的な人員不足、流動性の高い職種であることから、明確な人事計画を定めておらず、採用できる時に採用してきた。ここ数年は特に夜勤ができる職員の確保が難しく、その穴埋めのため非常勤職員を多く採用した。また瓢箪町きらく園の開

設も相まつたため全体的に職員（特に非常勤職員）が増え、人件費が膨らんでいる。こうしたことから、今後は速やかに明確な人事計画を立てる必要がある。一方で、稼働率が下がり人員が多い部署も見受けられるようになつたが、人事異動に対する拒絶反応もあり異動できず、有効に職員の活用ができていない。このため、オールマーティな職員の育成を図り、ITなどを活用し職員数が少なくなつても業務を継続できる仕組みを作成する必要がある。

#### 4. 中期目標（修正）

##### 1. 新規事業計画

Covid19 の発生により出費が増大した（本部 財務計画参照）このため、新規事業については計画そのものを見直す必要がある。R5 年度中に再度方針を立てる。

##### 2. アウトカム評価の対応

LIFE 関係加算には LIFE からのフィードバックを見て自施設の状況と照らし合わせて検討しなければならないという要件がある。LIFE の受注業者が変更となってからフィードバックの内容が以前よりかなりデータ量が増えてきた。これまでエビデンスに基づいて介護を展開するということを言われてきたが、それがデータとなって目に見える形を取り始めた。R5 年度は引き続き評価の対応に努める。

##### 3. 計画的人材活用

人財不足が悪化している。とはいへ、彦三きらく園は常勤換算数では間接業務職員を含む特養とショートステイに関わる職員（運転手除く）とした場合、利用者 2 人に対して職員 1 名という割合の配置。夜勤業務のある正規職員が不足であり間接業務職員やパート職員は増加している。両方の適正な人員の配置をどう考えるか再度検討の必要がある。

彦三きらく園 1.89 : 1 (R4.2 現在) ⇒ 2.1 : 1 (常勤換算数 25.3 名から約 22 名)

瓢箪町きらく園は 2 : 1 (R3.1 現在) ⇒ 2.33 : 1

彦三きらく園でいえば、必ずしも 8 時間勤務者を 22 名人員を配置するわけではなく、時間数でいえば 1 週間に 880 時間の勤務をどのように配置するかを考えることになる。直接処遇の 8 時間勤務職員と、短時間の間接業務、パート職員をどう組み合わせるか。現場業務を整理して配置を検討する。

瓢箪町きらく園はユニット型という特性もあり、ユニットにいる職員が 1 名しかいないという状態が日常的にあり、そうしたことでの職員の不安感が大きく、そのことで退職する職員もいた。これを解消すべく、ユニット間の応援体制を構築し浸透しつつあり、今後も継続していく。また変則勤務の時間については、職員の負担が軽くなるよう今後検討する。瓢箪町きらく園の職員は Covid19 祸しか知らない職員も多く、今後正常化したときの勤務体制や外出等レク、家族対応についても再度学びが必要である。

# 社会福祉法人希清軒傳六会

## 財務計画書

### 1. 収支計画

① 今年度を含め過去3年間の収支を見ると（別紙参照）、

令和2年度 当期活動収支差額△72,348千円、当期資金収支差額△64,481千円、

令和3年度 当期活動収支差額△67,284千円、当期資金収支差額△36,859千円、  
となり

令和4年度（見込み） 当期活動収支差額△37,900千円、当期資金収支差額△27,700千円  
と予想される。

稼働率は

令和2年度 彦三特 96.9% 彦三 SS91.0% DS69.6% 訪問 4911人 CM413人 瓢箪特 55.2% 瓢箪 SS 0%

令和3年度 彦三特 94.2% 彦三 SS83.1% DS48.4% 訪問 5295人 CM399人 瓢箪特 89.0% 瓢箪 SS28.2%

令和4年度 彦三特 89.8% 彦三 SS93.6% DS36.0% 訪問 4283人 CM372人 瓢箪特 93.9% 瓢箪 SS91.5%

※令和4年度は2月までの実績

令和2年度については、瓢箪町特養の開設があり収益は大きくマイナスとなっている。これは開設時の初期費用に加え、Covid19の蔓延から介護職が敬遠されたことから職員が確保できず、ユニットの稼働が大きく遅れたため、予想以上に大きなマイナスとなった。

令和3年度は、Covid19蔓延から、彦三においては新規や他施設併用利用者の受入れ控えがあり、各部門とも稼働率は悪化した。瓢箪町では職員の確保・定着が遅れたためショートステイのオープンが8月以降なり、計画通りの収益を上げられなかったものである。

令和4年度は、彦三においてCovid19のクラスターが数回発生した。そのため特養においてはベッドが空きをすぐに埋められず稼働率が落ち込んでいる。ショートステイは逆に退所できず施設内で療養を余儀なくされたことから前年度より稼働が上がっている。デイサービスはクラスターの期間一時休業したこともあり利用者離れが進み、また新規利用者獲得が進まず、過去最低の稼働率となっている。

支出では最も金額が多い人件費の比率が2年度74.2%、3年度75.7%、4年度71%（予想）といずれも全国平均を大きく上回っている。今後は63%前後で抑えることが必須である。

② 収支目標（別紙参照）として、令和5年度以降は悪化している稼働率をいかに引き上げるかが一つの課題である。特に落ち込みが大きい彦三から園デイサービスを如何に引き上げるか、そのためには契約者数が少なくなっている当法人のケアマネ事業所の契約者数を増やし、デイサービスへの利用につなげることも一つの戦略である。

稼働率目標は次のとおりとする。

令和5年度 彦三特 96.5% 彦三 SS96.5% DS51.3% 訪問 5040人 CM558人 瓢箪特 96.5% 瓢箪 SS 96.5%

令和6年度 彦三特 96.5% 彦三 SS96.5% DS57.5% 訪問 5040人 CM702人 瓢箪特 96.5% 瓢箪 SS 96.5%

令和 7 年度 彦三特 96.5% 彦三 SS96.5% DS66.1% 訪問 5040 人 CM864 人 瓢箪特 96.5% 瓢箪 SS 96.5%  
令和 8 年度 彦三特 96.5% 彦三 SS96.5% DS70.0% 訪問 5040 人 CM960 人 瓢箪特 96.5% 瓢箪 SS 96.5%

これに基づき、資金収支計算書上の収入・収益目標は次のとおりとする。

令和 5 年度 総収入 472,996 千円 収益 +1,300 千円

令和 6 年度 総収入 478,807 千円 収益 +7,200 千円

令和 7 年度 総収入 486,500 千円 収益 +14,900 千円

令和 8 年度 総収入 490,100 千円 収益 +18,500 千円

※なお、この計画は今後の物価上昇や修繕、介護報酬改定等未確定要素については含めていないため、あくまでも暫定である。支出については令和 5 年度実績、収入については令和 6 年度の報酬改定を精査し、次期中期計画及び収支計画に反映させるものとする。

### ③借入金（別紙参照）

現在 Covid19 の影響により借入金が大きく膨らんでいる。

福祉医療機構からの設備資金借入金（彦三きらく園特養・平成 30 年度 15,300 千円。瓢箪町きらく園・令和 2 年 5 月 30,000 千円）については Covid19 に関係なく実行したものであるが、Covid19 の影響による資金繰り悪化のため福祉医療機構より令和 3 年 11 月に 6 千万円（長期借入金）、北國銀行より令和 4 年度 12 月までに 5 千万円（短期当座借入金）の借り入れを実行している。

今後はこれらの返済が生じてくる。

実績

	H30 稼働率	R1 稼働率	R2 稼働率	R3 稼働率	R4(2月まで) 稼働率
彦三特養	95.8%	95.1%	96.9%	94.2%	89.8%
彦三SS	96.3%	100.1%	91.0%	83.1%	93.6%
彦三DS	62.5%	80.7%	69.6%	48.4%	36.0%
訪問	4027人	3971人	4911人	5295人	4283人
ケアマネ	534人	437人	413人	399人	372人
瓢箪特養			55.2%	89.0%	93.9%
瓢箪SS			0.0%	28.2%	91.5%
当期活動収支差額	+38,969千円	△59,959千円	△72,348千円	△67,284千円	△37,900千円 (見込み)
当期資金収支差額	△9,529千円	+80,149千円	△64,481千円	△36,859千円	△27,700千円 (見込み)

(彦三特養個室化工事) (保有株売却) (瓢箪町開設)

目標

	R5 稼働率	R6 稼働率	R6 稼働率	R6 稼働率
彦三特養	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%
彦三SS	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%
彦三DS	51.3%	57.5%	66.1%	70.0%
訪問	4800人	4800人	4800人	4800人
ケアマネ	558人	702人	864人	960人
瓢箪特養	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%
瓢箪SS	96.5%	96.5%	96.5%	96.5%
当期資金収支差額	+495千円	+6,306千円	+14,002千円	+17,608千円

借入金

借入先	目的	金額	金利	借入時	償還期間	R5年度償還金	R6年度償還金
福祉医療機構	彦三特養個室 化工事	15,300,000	0.55%	H30.12.19	15年	1,020,000	1,020,000
	瓢箪町整備費	30,000,000	0.75%	R2.6.3	30年 (3年据置)	1,112,000	1,112,000
	コロナ緊急融資	60,000,000	0.20%	R3.10.28	15年 (5年据置)	0	0
北國銀行	当座貸越	50,000,000	1.00%	R3.12.8、 R4.6.28、 R4.12.7		5,000,000	5,000,000
						7,132,000	7,132,000

法人合計

	R5	R6	R7	R8～
稼働率	87.9%	89.1%	90.7%	91.4%
延べ利用者数	34,421	34,881	35,522	35,800
介護収入	373,167,098	378,675,034	385,948,382	389,370,366
食費	52,371,540	52,675,140	53,098,200	53,281,680
居住費	46,570,050	46,570,050	46,570,050	46,570,050
その他収入	0	0	0	0
<b>総収入</b>	<b>472,108,688</b>	<b>477,920,224</b>	<b>485,616,632</b>	<b>489,222,096</b>
	66.4%	65.6%	64.5%	64.0%
人件費	313,345,052	313,345,052	313,345,052	313,345,052
常勤給与	224,365,006	224,365,006	224,365,006	224,365,006
	2,986,740	2,986,740	2,986,740	2,986,740
賞与	40,025,819	40,025,819	40,025,819	40,025,819
法定福利費	37,916,887	37,916,887	37,916,887	37,916,887
退職基金共済	8,050,600	8,050,600	8,050,600	8,050,600
経費	129,960,000	129,960,000	129,960,000	129,960,000
その他経費	0	0	0	0
地代	28,309,200	28,309,200	28,309,200	28,309,200
<b>総支出</b>	<b>471,614,252</b>	<b>471,614,252</b>	<b>471,614,252</b>	<b>471,614,252</b>
<b>収支計</b>	<b>494,436</b>	<b>6,305,972</b>	<b>14,002,380</b>	<b>17,607,844</b>
本部経費				
本部含む通期				

令和5年度  
社会福祉法人希清軒傳六会  
彦三きらく園事業計画

## はじめに

令和5年5月8日、新型コロナウィルス感染症の分類が「5類」に引き下げられることが確定した。令和4年度は、彦三きらく園で3回のクラスターを経験。施設内感染拡大防止に係る費用はもとより、2階フロアのクラスターで2名の方が亡くなつたこともあり、職員のメンタル低下が一番の打撃だった。感染症拡大時の多床室での対応の難しさを痛感した1年だった。

## 外部環境

どの業界も新型コロナウィルス感染拡大によって打撃を受けたが、介護業界でも過去最大、143件の倒産件数となった。従業員数10人未満の小規模事業所が8割超とのこと(東京リサーチ調べ)。

金沢市内を見ると全国で倒産の多い通所介護事業所は、R3年度は通常規模と地域密着型の合計が107事業所(金沢市HP掲載の資料と当施設把握の情報による)であったものが、R4年度では108事業所と1事業所の増加がある。しかし内訳をみると地域密着型の閉鎖が4件、新規開設が5件、通常型の閉鎖が2件、新規開設が3件。小規模の地域密着型への影響が大きいことが分かる。同じく倒産件数の多い短期入所生活介護は1事業所で定員を減らしたところがある。しかし、前年度873床に対して、R4年度は新規開設事業所2件、ベッド数は895床。前年度に続いて増加している。有料老人ホームも新規開設が3件。90床の増加。高齢者数の増加に伴い、24時間対応のサービス需要が継続して増加している。これらの影響からか、現場からは「少し介護度が重くなると、すぐに施設入所になる。」との声も聞かれる。実際、彦三きらく園ショートステイ利用者の平均介護度はH27年度で要介護度3だったが、R4年度では要介護度平均2.28。稼働率は維持しているが、収入が減少している。

5月8日で新型コロナウィルスが2類相当から5類に変更となる。社会活動は以前の状態に戻りつつある。施設内対応も少しずつではあるが、以前の状態に戻ることになる。感染には十分に注意しつつ、施設理念である「ごく自然に幸せな」生活を目指して施設利用者のQOL向上に取り組む。

## 内部環境

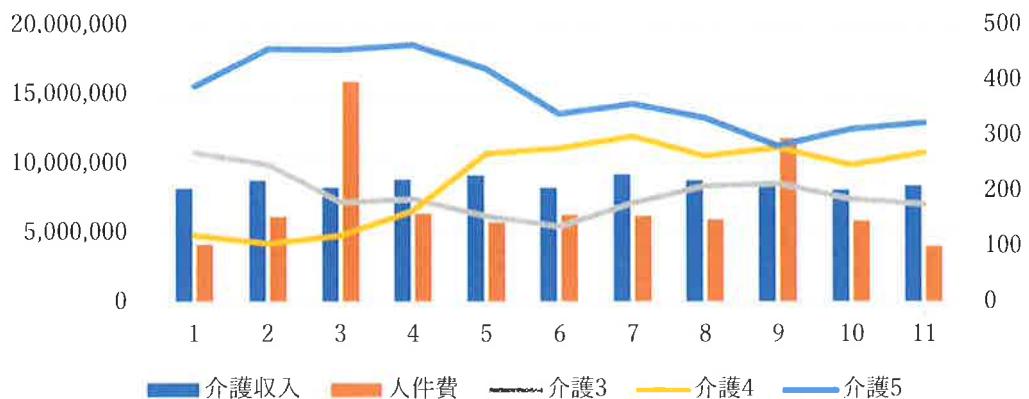
R4 年度は3階フロアで2回、2階フロアで1回クラスターが発生。2階では入居者2名が亡くなられた。後日、瓢箪町きらく園でも1名の感染者が出たが、クラスターになることはなかった。多床室での感染対応の難しさを痛感させられた。

地域に向けた活動は新型コロナウィルスの発生時より停止。いよいよ再開できる時期に来たが、地域も変化していた。これまで「つつじの会」で中心となって活動していた方より「つつじの会」を中止とするとの申し出があった。社会福祉法人手をつなぐ親の会、まこと保育園との法人連携としての相談窓口も休止状態が続いている。それぞれの法人が活動を継続できるかも不透明な状態になっている。

全てのことが以前の状態に戻る訳ではなく、ゼロからやり直すことも多い。活動だけではなく、職員もクラスター対応や、制限の多い生活で精神的に疲弊しているようにも感じている。仕切り直し、活気ある施設の雰囲気を作りたい。

## 特別養護老人ホーム

R4年度特別養護老人ホーム



新型コロナウィルスのクラスター発生やその他のことで新規入居の受入れが滞った。R4 年度の稼働率目標 96.5%に対して 89.8%と、90%を下回る結果となった。特別養護老人ホーム開設時以来の稼働率となる。受入れさえできれば安定的に稼働していく事業所のため、退所があった場合の新規受け入れができるだけ早い期間で受け入れていくことが必要。

## 短期入所生活介護(ショートステイ)

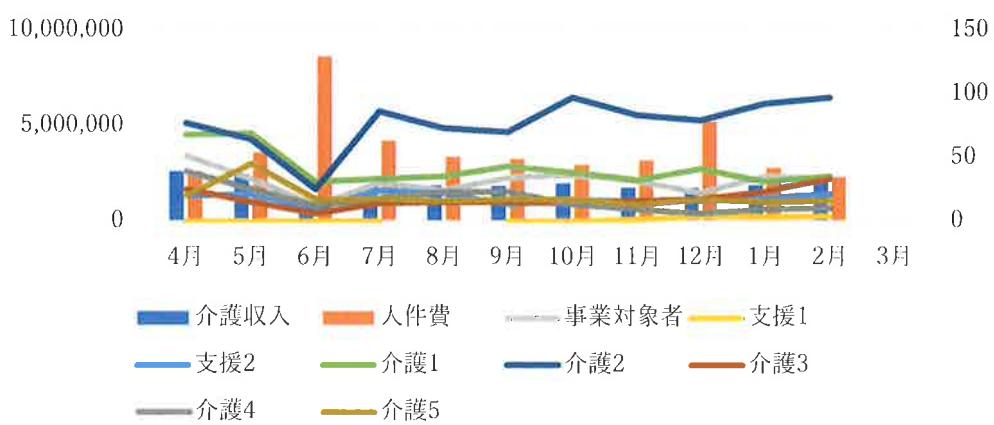
R4年度ショートステイ



稼働率目標 96.5%に対して 93.6%。2回のクラスター発生を乗り越えての稼働率であり、目標には届かなかったものの、善戦したと思われる。しかし、平均介護度が 2.28 と軽度化しているが、利用する方の抱える問題は多様化している。これからも利用希望は減ることがないと思われるが、より複雑な対応が求められる。

## 通所介護(デイサービス)

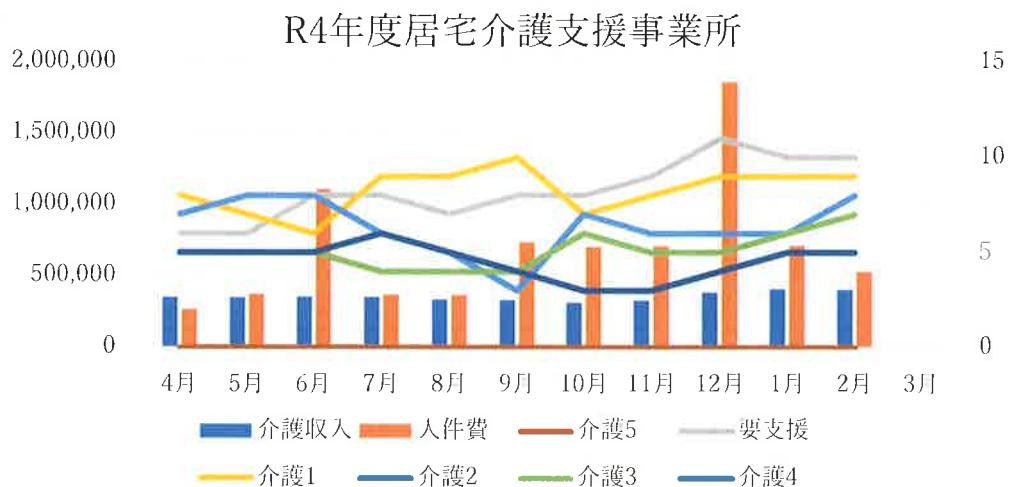
R4年度デイサービス



目標稼働率 60%に対して 36%。クラスター発生時の応援確保のため、一時閉鎖したことでも稼働率が低下。クラスター発生前から稼働率が思わしくなかったところに輪をかけて悪化することになった。人員配置も稼働率が良かった頃のままであり、収支が悪化する一因でもあった。しかし、年明け以降、新規利用者が増えており、3月見込みでは 50%台まで回復す

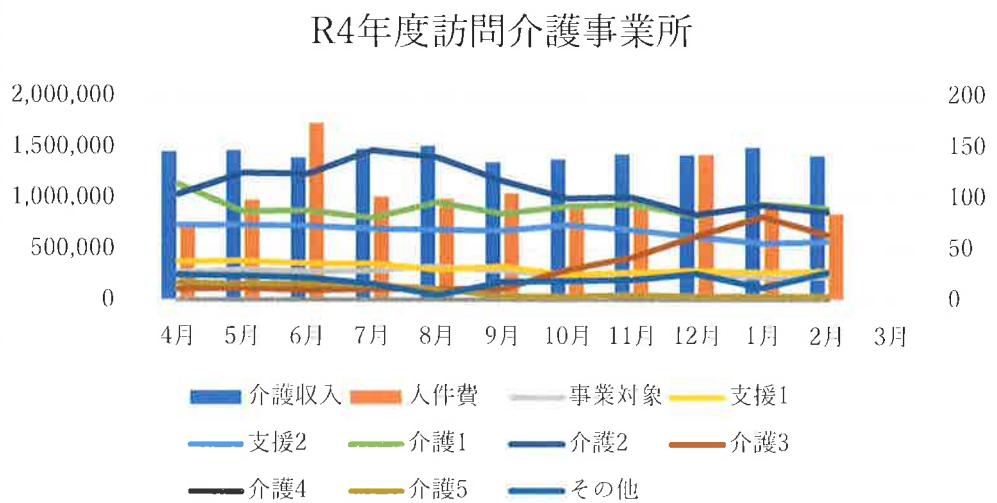
る見通し。他フロア業務の応援でもデイサービス職員が活躍しており、3フロア全体で協力し業務を回している。

## 居宅介護支援事業所



目標登録者数(要介護者、要支援者含む)月平均 40 件としたが、目標には届かず。また、施設内で居宅介護支援事業所への異動希望があったため、ケアマネージャーを2名体制とした。収支を考えると無謀にも思えたが、外部事業所からの担当依頼が増え、毎月1~2名、新規登録者が増えている。デイサービスの稼働率が上向いてきた要因としても、居宅介護支援事業所が機能し始めたことが大きい。

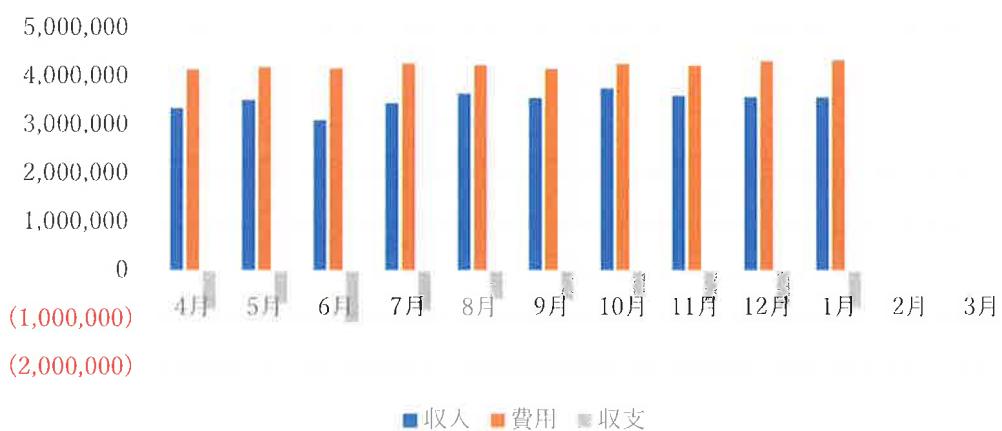
## 訪問介護事業所



延べ利用者数は、確保できている。基準緩和、要支援者に対応する事業所が少なく、軽度者の依頼が多い。このため、収入単価は年々低下している。長期対応を見越して軽度者を受け入れているが、介護度が重くなると有料老人ホームに入居となるため、単価が低くなっている。

## 栄養課

R4年度給食関係収支



目標とした提供数を増やす方法について提案がなく、目標未達。瓢箪町きらく園開設から3年が経ち、その間、何度か業務工程を見直している。更に栄養課の業務を今一度見直し、長期事業計画に沿った対応を検討する。給食の収支は、委託費を除けば収入内に収まっている。施設からの持ち出し分は多いものの、介護職の人材不足に加え恵調理員を採用することは困難であり、外部委託に頼らざるを得ない。

## 看護課

目標とした感染症 BCP が完成。実際に施設内で新型コロナウィルスのクラスターが発生、看護職員が大いに活躍した。残念ながら感染拡大は阻止できなかつたが、この教訓を生かし BCP の実用的な活用と感染防止に関する基本的対応を施設内で徹底させることを期待する。

## 事務所

業務の見える化は未達。3年連続未達となる。瓢箪町きらく園に関わる業務も3年経つため、るべき業務は確定していると思われる。次年度はぜひ達成したい。

新型コロナウィルスクラスター下で、備品調達など安価で早急に手配できるよう業者と交渉するなど縁の下の力持ちとして行動。事務所の役割として分かり易く機能した。

## まとめ

3度の新型コロナウィルスクラスター発生により目標は一部を除き未達となった。新しい感染症は今後も発生する。今年度の経験を活かし、新たな感染症に備えたい。

これまでの彦三きらく園利用者の傾向を見ると、利用者本人の問題だけでなく、家族も問題を抱えていることが多くみられる。問題は多様で複雑であり、関係各所との連携が欠かせない。高齢者の単身世帯や成年後見制度を利用している方も増えており施設の負担はこれまでよりも大きくなっている。今後もこの傾向は進行していくことは間違いない。

また、現場では更に人材の不足が加速し、これまで業務のやり方では対応が困難になっている。2040年には現役世代が急減すると言われているが、それまでにも人員不足は進行していく。現に彦三きらく園の介護職員がこれまでにないほどの不足があり、このままでは24時間対応サービスは立ち行かなくなる。今年度途中より24時間対応フロア(2,3階)の業務一本化を目指して検討会を立ち上げた。しかし、進捗は緩やかであり、ゴール到達までにはまだまだ時間が必要な状態である。

現状は困難ばかりが目に付く。新型コロナウィルスのクラスターによって施設全体が疲れ切っている。そのような中でもここで頑張りたいという職員が入職することが明るい話題になる。縁あって入職した職員が元気に働く施設となれるよう努力していく。

## R5年度目標

新型コロナウィルス感染がようやく落ち着いてきた。R5年度はこれまで制限してきた活動を再開し、或いは再構築し、収支状況を改善していきたい。

### 彦三きらく園拠点

職員一人ひとりが責任をもって業務にあたる。

起きていることを他人事とせず、常に自分が当事者と思い、起きていることに真摯に対応する。

### 特別養護老人ホーム

目標稼働率 96.5%。

**行動目標:LIFE フィードバックを活用し、自施設入居者の状況を理解する。**

根拠に基づいた介護を実践するために LIFE のフィードバックを活用。根拠に基づく支援の実践を目指す。

#### 短期入所生活介護(ショートステイ)

目標稼働率 96.5%。

**行動目標:業務の棚卸と整理。**

今の業務を棚卸し、劣位の業務は取りやめ、必要業務は効率的に改善する。全体業務の1割を削減することを目標とする。

#### 通所介護(デイサービス)

目標稼働率 51.3%。

**行動目標:LIFE フィードバックを活用し、自施設利用者の状況を理解する。**

根拠に基づいた自立支援を実践するために LIFE フィードバックを活用。根拠に基づく自立支援の実践を目指す。

#### 居宅介護支援事業所

目標 年間延べ登録者数 558 人。

**行動目標:目標達成のため、毎月1~2名の新規登録者を獲得するため、定期的な営業活動を実施する。定期的活動のタイミングは事業所より提案。**

#### 訪問介護事業所

目標 年間延べ利用者数 4,800人。

**行動目標:登録ヘルパーを増やし、新規利用者を増やす。また、ケアマネからの訪問利用の問い合わせに対し、断る件数を減らす。**

#### 事務所

目標:業務の見える化。

3年越しの目標。瓢箪町きらく園の事務業務も概ね流れが出来てきた時期と思われる。業務見える化し、施設管理、現場の円滑な業務遂行のフォローを実行。

### 栄養課

目標:毎月 400 食の弁当を提供。

行動目標:弁当の提供数を増やす方法について、施設長へ提案する。

現状で提供数を増やすことができない問題点を洗い出し、改善と改善に必要な条件を提案。

### 看護課

目標:看護職員と介護職員の業務を振り分け周知する。

看護職員がすべきこと、介護職が関わることを振り分けて周知し、徹底する。

### 本部

目標:明確な人事計画の策定。

次期介護報酬改正を見据えた中期計画の策定。

経営基盤の立て直し計画の策定。

新規事業計画の策定。

### 各委員会

R6 年度に委員会を再編成し、現場職員の事務負担を軽減するにあたり、R5 年度は一部の委員会を担当制とし、業務内容を整理する。

ボランティア係は地域交流委員会内で対応。ボランティアが活動するフロアとの連携を持ちながら検討していく。

環境美化は、リネン、大掃除など必要なことは各フロアで係を設定し、委員会からは外す。

---

### 安全対策委員会

目標:委員会マニュアルを作成する。

事故防止委員会、虐待防止、身体拘束適正化を統合して安全対策委員会とした。年間で開催必須の研修やその他業務を整理し、委員会マニュアルを作成する。

---

## 防災委員会(BCP)

目標:実効性のある BCP を作成する。

今ある BCP、金沢市のハザードマップを参考に実効性のある BCP を作成する。

---

## 地域交流委員会

目標:おきらくさんの再開準備と活動体制を整え実践する。

新型コロナウィルス感染対策の緩和に伴い、地域交流に関わる業務を確認し、実践する。

---

## 健康管理委員会

目標:前年度クラスター対応を踏まえて BCP の実効性を確認し、研修を通して基本的対応の周知徹底を図る。

多床室というハードを考慮した対応を職員に周知する。

---

## 給食委員会

目標:食をとおして彦三きらく園をアピールする。

HP や広報誌を活用し、施設の食事や食をとおした健康に関する情報を広く提供する。

---

## 研修担当

目標:施設内、OFF-JT、SDS の研修管理と年間計画の立案業務の効率化

受講申請や報告の方法を紙から IT を使った方法へ切り替えるために何が必要かを整理し、実践する。事務的作業が多いと判断し、委員会業務から外す。

---

## 広報担当

目標:広報誌の作成過程の見直しと HP の更新

広報誌の活用方法を含め、記事や紙面の作成方法をルーティン化。研修同様に委員会業務から外す。

---

## 2. 3階統合化検討会

目標:標準業務の修得

R6 年度3月末までに標準業務を修得するための工程を作成し、実践の場での対応を検討、。

---

#### おきらく祭 PT

目標:3年ぶりのおきらく祭の実行と活動の経過、資料を残し整理

行事企画は各フロアで実施しており、行事企画委員会をなくす。おきらく祭は PT とし、企画から実行までの資料を今後の参考とするために残す。

---

#### 業務改善 PT

目標:抱える移乗介護をこれまでより3割減らす。

抱える移乗介護とは、職員一人で介護ロボットなどの機器を一切使用することなく人力のみで移乗することとする。

令和 5 年度  
社会福祉法人希清軒傳六会  
瓢箪町きらく園事業計画

## はじめに

開設2年を経過し3年目に突入した。特養については上半期は、入院等が多く伸び悩んだが、下期においてはベッドコントロールも順当にでき、好調な稼働率で推移できた。通年ではほぼ目標に近い稼働率となる予想である。ショートスティについては、職員もようやく慣れて月を経るごとに稼働率が上がっている。特に下期においては100%を超える月もあり、通年では目標稼働率を大きく上回る予想である。令和5年5月8日にはCovid19が2類から5類に引き下げられる。瓢箪町きらく園はCovid19禍で施設内での業務しか経験のない職員も多く、今後面会ご家族の対応や、外出レクなど本来の状態への切り替えが必要となってくる。

## 外部環境

全国の介護業界は例外なくCovid19の影響を受けた。特にデイサービスと訪問事業所はその程度が大きく、その立て直しに苦慮している。コロナ禍で外出もできず、人とも会えない状態が長く続き、高齢者のADLが全国的に悪化し、施設利用者が増えてきている。また退院者の行き場がなく、そうしたことでの施設希望も増えている。瓢箪町は部屋代も高く、どこまで需要があるのかと一時懸念されたが、個室の需要も多く好調な稼働率となっている。

## 内部環境

Covid19については、毒性は弱まっているがその分感染力が強く、金沢市内でも多くの他施設でクラスターが発生した。そのような中、瓢箪町きらく園においては、職員に感染者が数名出たものの、利用者については感染者1名、濃厚接触者3名と最小限に収まり全員無事に回復した。これは個室である物理的な構造と、彦三で発生したクラスターに学び、初期対応を徹底して行ったことが主な要因である。また、県から支給される抗体検査キットを活用したことも要因としてあげられる。ワクチンについては、利用者及び職員のうち希望者は3~5回接種を終えた。面会については、石川県の感染指標を見ながら、面会室での直接面会やオンライン面会で対応している。

職員の採用状況は、令和4年度の正規職員は3名、非常勤職員は4名である。退職者は正規職員2名(体調不良1名、結婚1名)、非常勤職員5名(体調不良1名、人間関係1名、家庭の都合1名、仕事が合わない1名、契約満了1名)である。このうち採用1年内の退職

者はおらず、定着も進んできている。課題であったユニット間応援体制が進み、職員の負担感・不安感が解消できている結果と考える。

令和4年度は、引き続きCovid19対策に追われた1年だった。5月より2類相当から5類になるが、ウィルスが消えるわけではなく、感染対策は当面継続する必要がある。そのような状況でも、利用者とご家族の面会やレクも徐々に通常に戻し、利用者の生活の質の向上につなげていきたい。

### 特別養護老人ホーム

R4年度は、上半期は入院者が多かったが、下期になり安定した1年になった。ニーズは高く、待機者も常に数名確保できている。

入居される利用者は比較的介護度が軽い方が多い。2月までの稼働率は93.9%とほぼ目標の95%に近いものとなった。

開設3年目に入り職員の経験値が上がっておりユニット間協力体制も確立しつつある。今後は職員交流の機会も設け、定着につなげていきたい。

### 短期入所生活介護

R4年度は昨年度第4四半期の流れから好調な出だしとなった。職員の経験値も上がり、新規の利用者が多い中でもいち早く利用者の特性やニーズを把握でき、月を経るごとに稼働率が上がっていった。ニーズとしては、いわゆる「ロングショート」利用、特養待機者が多いが、通常利用のリピータも増えてきている。これはケアマネ事業所に瓢箪町きらく園が浸透してきた結果であると考える。

通年稼働率は、目標85%に対し、2月末時点で91.5%である。

職員もようやくショートステイに慣れ、特養と違った楽しさ、難しさを学びながら成長している。

### まとめ

新型コロナウィルス対策に追われながらも職員の育成が進み、特養はほぼ目標稼働率、ショートステイは目標を大きく上回る稼働率となった。令和5年度は更に職員の育成・定着を図り、安定的に稼働していきたい。

## 令和 5 年度年度目標

Covid19 禍しか知らない職員が多いため、利用者の満足度・生活の質の向上、ご家族との接遇力の向上を図る。

職員の健康維持・負担軽減・定着を図り、安定した職員数を維持する。。

### 瓢箪町きらく園拠点

常に「収支」を意識し、業務効率化、無理・無駄・ムラを極力なくす。

瓢箪町きらく園の資金収支差額目標は+8, 587千円とする。

### 特別養護老人ホーム

利用者も職員も良かったと思える関係づくりに努める。レクや行事を充実し、利用者・職員共に楽しめる施設運営を行う。

外出や会いたい人と会う機会を設け、生活の質の向上する。

稼働率は年度目標 96.5%、収入は 151,645 千円とする。

### 短期入所生活介護

ショートステイ利用者の特性を職員が習得し、より良いサービス提供を行う。

利用者と職員が信頼関係を構築し、自立した生活が継続できるよう努める。

外出レクや行事を充実し、利用者・職員共に楽しめる施設運営を行う。

稼働率目標は、96.5%。収入として 47,923 千円とする。

### 各委員会

R6 年度に委員会を再編成し、現場職員の事務負担を軽減するにあたり、R5 年度は一部の委員会を担当制とし、業務内容を整理する。なお、令和 6 年度は彦三と別開催とする。

### 安全対策委員会

目標:委員会マニュアルを作成する。

事故防止委員会、虐待防止、身体拘束適正化を統合して安全対策委員会とした。年間で開催必須の研修やその他業務を整理し、委員会マニュアルを作成する。

---

## 防災委員会(BCP)

目標:実効性のある BCP を作成する。

今ある BCP、金沢市のハザードマップを参考に実効性のある BCP を作成する。

---

## 地域交流委員会

目標:近所の幼稚園・保育園と関係性を構築し、慰問や散歩などを通じ交流を深める。

瓢箪町公民館や明成小学校の行事の見学や参加を図る。

ボランティアの受け入れ態勢を作り今年度中に活動できるようにする。

---

## 健康管理委員会

目標:外出や面会が増えることに向けての感染対策の策定。

---

## 給食委員会

目標:安全でおいしく楽しく召し上がっていただけるよう、工夫する。

---

## 研修担当

目標:施設内、OFF-JT、SDS の研修管理と年間計画の立案業務の効率化

受講申請や報告の方法を紙から IT を使った方法へ切り替えるために何が必要かを整理し、実践する。事務的作業が多いと判断し、委員会業務から外す。

---

## 広報担当

目標:広報誌の作成過程の見直しと HP の更新

広報誌の活用方法を含め、記事や紙面の作成方法をルーティン化。研修同様に委員会業務から外す。

---

## 業務改善 PT

目標:厚労省から発出されている「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」に従い、次期中期計画に反映させるための業務分析・時間配分検討・課題発掘を行う。変則シフトができる職員の確保が難しくなっている中、夜勤時間の見直

しなどを通し、早番及び遅番の勤務を少なくするよう勤務体制を見直し・検討・試行を行う。職員と利用者の割合を現状を最低限維持し、より効率化を図る。